

瀬戸臨海実験所”研究道路”に出現したスナガニ属の一種(スナガニ科)

久保田 信

Appearance of *Ocypode* sp. (Ocypodidae) at night on “research road” of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University

Shin Kubota

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県白浜町 459)

はじめに

スナガニ類は和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所”北浜”に3種(スナガニ、ナンヨウスナガニ、ツノメガニ)が知られているが(久保田, 2006)、これまで実験所構内の人目に付く場所には出現したことがない。ところが、今回、”北浜”以外の構内に、2012年7月初旬にスナガニ類が現れたので記録する。

記録

2012年7月4日21時45分、瀬戸臨海実験所正門を入ってすぐの舗装された”研究道路”上に、1個体のスナガニ属の一種の幼体が歩行していた。このカニにライトをあて直ちに撮影したが、弱った様子は全くなく歩行も素早かった(図1)。この個体には触れもしなかったため、雌雄の判定もできなかった。この出現地点は、構内の正門前から研究棟入り口付近までの舗装道路(”研究道路”)上にあり、実験所構内では、最近、最も頻繁に調査している箇所(久保田, 2012a, b 参照)で、この道路には、特に2011-2012年の夜間にサツマゴキブリが大量に長期間出現しているが(久保田, 2011, 2012a)、今回初めてここでスナガニ類と遭遇した。



図1 京都大学瀬戸臨海実験所”研究道路”に2012年7月4日の夜間に出現したスナガニ属の一種

瀬戸臨海実験所”北浜”には、夏季にはスナガニ類の巣穴は最多で442個が形成されていたが(久保田, 2006)、2012年には今回のカニの発見日まで1個も造られていない(直径5mm程度のごく若い幼体の38巣穴が7月7日に今年になって初めて形成)。今回遭遇したスナガニ属の一種はまだ巣穴をつくらず、大型個体なので浜より陸側に巣穴を造っている可能性もあるが、構内を放浪しているものと推察され、その個体のサイズから判断して越冬個体と推察される。“北浜”では冬季になるとスナガニ類の巣穴はあいていないが、鳥類にも食べられずに死

亡している大型個体が、運良く、時折、年によってだが、ごく少数個体が、発見されることがある。

本個体の同定に関して奈良女子大学の和田恵次博士より回答を頂いたので、その一部をここで紹介したい。「写真からだて確定的なことはやはり言えませんが、おっしゃるようにミナミスナガニのように見えます。よく間違えられる種としてナンヨウスナガニがいますので、やはり標本による確認が必要です。ツノメガニやスナガニではないと思います。かつて田辺湾で普通にいたスナガニはほとんど見られなくなりました。少なくとも私が白浜に来た 1975 年頃以来、北浜でスナガニを一度も見ることがないのです」。

謝辞

本個体の写真からの同定に関して有益なご意見を下さった奈良女子大学の和田恵次教授に深謝致します。

引用文献

- 久保田 信. 2006. 干潟でダンスするカニたち. pp. 124-125. In “宝の海から-白浜で出会った生き物たち”. 紀伊民報, 和歌山県.
- 久保田 信. 2011. 夏から初冬に瀬戸臨海実験所構内に大量出現した熱帯性のサツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 瀬戸臨海実験所年報, 24: 53-56.
- 久保田 信. 2012a. ムラサキオカヤドカリ (甲殻類, 異尾類) の越冬個体を京都大学瀬戸臨海実験所“南浜”で 2012 年春に再発見. 瀬戸臨海実験所年報, 25: 36-38.
- 久保田 信. 2012b. 瀬戸臨海実験所構内“研究道路”に 2012 年に初めて出現した熱帯性のサツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 瀬戸臨海実験所年報, 25: 45.